

教育広報

いわき

編集責任者
福島県教育庁
いわき教育事務所
発行責任者
大内 克之

ファーストペンギン

魚をとるため、天敵のいる海に、群れの中で最初に飛び込む勇敢なペンギン

いわき教育事務所長 大内克之

むかしむかしのお話です。その小学校には社会科の授業がありませんでした。理科の授業もありませんでした。音楽科も図画工作科も、そして、特別活動もありませんでした。あったのは「人間科」「地球科」「表現科」などの教科。それぞれに、子どもたちが社会の中で生きていくために必要な資質・能力の育成を目指した目標が設定されていました。

学問体系の側面が強い各教科に対して、子どもの学びの視点から教科を作った点が画期的でした。柔軟でダイナミックな発想に驚かされます。今から約30年前に福島県内にあった本当のお話です。文部省(当時)の研究開発学校の指定を受けたことで学習指導要領によらず実現できた学校です。この学校の取組は全国に発信され大きな反響を得ました。国の教科再編にはつながりませんでしたが、平成12年の「総合的な学習の時間」の誕生に少なからず影響を与えたと思います。しかし研究センターの学校だったわけではありません。キャッチフレーズは「子どもたちがスキップして登校してくる

学校」。教科を作った考え方と同じ、子どもを真ん中に置いて、子どもの「思い」や「願い」を大切にしたい学校でした。

「カリキュラム・マネジメント」という言葉を見ると、この学校を思い出します。現行の学習指導要領によって、教科を超えてカリキュラムを大胆に構想できるようになりました。学校の特色化が進んでいきそうです。

いわき市は広域で多様、柔軟で革新的な人柄も強みです。コロナ禍にあっても新たな取組に挑戦する県内で最も活気のある都市です。学校も柔軟性と革新性をもって「変革」していく時期にきていると思います。カリキュラムだけでなく変えることのできるものは、学校にたくさんあります。大切なのは変化を恐れず新たな一歩を踏み出すチャレンジ精神です。

このような事を書くとき、教育行政が最も保守的ではないかと言われそうですが、いわき教育事務所は、ファーストペンギンとなって「変革」を進めていきたいと思っています。

磐城桜が丘高校「教育コース」、勿来高校「福祉コース」が始まります！

教育



磐城桜が丘高校

- ・教育に関わる職業への理解や使命感を醸成します。
- ・教員養成学部などへの進学に向けた学習指導、進路指導の充実を図ります。
- ・体験学習や講演会、探究活動等において、「教育」について深く学ぶことができます。

勿来高校



福祉

- ・福祉関連の学習や施設実習等を通して、福祉社会で活躍できる生徒の育成を目指します。
- ・介護や保育等の福祉系への進路指導の充実を図ります。

※いわき教育事務所のHPもぜひご覧ください。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70710a/>

～県の事業実践紹介～

不登校・いじめ等対策推進事業 スペシャルサポートルーム(SSR)

本事業は、児童生徒が抱える課題や多様なニーズに応じた支援、特に、不登校及び不登校傾向にある児童生徒の学習機会を確保し、将来の社会的自立を促すため、指定校である平五小、平三中、小名浜一中において実践を進めています。



空き教室を活用し、安心して魅力的な環境をつくり、専任教員が常駐して児童生徒に寄り添っています。

また、今年度はSSR加配教員を中心に不登校に関わる教員を対象とした「SSR等担当者教員研修会」を年3回実施。各校の課題等をもとに、校内体制の在り方、保護者との関係構築など具体的な例を取り上げ、SSR加配教員等と情報交換を行いました。



不登校・いじめ等対策推進事業 いじめ防止ラウンドテーブル

いじめ防止に関わって主体的に取り組む学校の生徒が互いの活動や意見を交流する「いじめ防止ラウンドテーブル」が8月19日に行われ、いじめ防止推進校として平二中の生徒会が参加しました。

急遽オンラインでの開催となりましたが、平二中生徒会伝統の「あじさい運動」や「あじさい俳句コンクール」、全校生アンケートをもとにいじめ防止に向けた動画コンクールの企画など、生徒会による主体的な活動を紹介しました。後半は、参加した他地区の中学生とそれぞれの実践やいじめに対する考え方について意見交流を行い、いじめに対する考えを深めることができました。

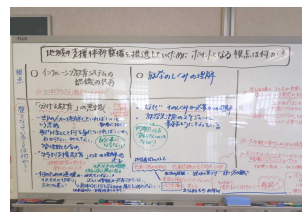


平二中の実践については、11月29日に行われた「ふくしま教育創造コンソーシアム」で県内の学校関係者に向けて発表を行いました。また、令和5年1月21日に行われた文部科学省主催の「全国いじめ問題子供サミット」に生徒会長が参加して、実践発表を行い、全国の児童生徒と意見交流を行いました。

《いわき地区の「特別支援教育」の取り組み》

「保健・福祉と教育が連携した高校等への“チーム支援”」

『地域で共に学び、共に生きる教育』を推進するため、いわき地区では、市教委、総合教育センター等の市での取組を生かしながら、支援が必要な「高校生等」への支援をしています。高校でも本人と合意形成された支援を受けて学ぶことができるように、また卒業後の生活や就労に向けて、特別支援学校、障害者就業・生活支援センターや地域若者サポートステーション、基幹相談支援センター、子育てサポートセンター等の関係機関の方々と会議を行っています。会議の「見える化」を図り、グループ協議を工夫し、様々な職種の方から意見を出し合い、チームで取り組んでいます。高校から事例を提供いただきながら、毎回活発な協議を日々の支援に生かしています。



令和4年度「地域でつながる家庭教育応援事業」家庭教育応援企業推進活動「企業学習会」

いわき市内には300を超える企業が福島県家庭教育応援企業に登録しています。登録企業には、福島県教育委員会から家庭教育に関する資料や研修会の案内を提供したり、認証書を発行したりしています。また、福島県教育庁社会教育課や福島県教育庁いわき教育事務所のホームページに企業名を公表しています。

本年度初めて、これらの企業から参加者を募って、家庭教育応援企業推進活動「企業学習会」を実施しました。学習会のテーマを増加傾向にある不登校と、キャリア教育の目標の一つである「社会的・職業的自立」を関連させた「キャリア教育を基盤とした未来志向型不登校支援プログラム～不登校支援から見える子育ての大切さ～」としました。講師には、キャリア教育への造詣が深く、現在日々不登校生徒と向き合っているいわき市立平第二中学校教諭(元いわき市立内郷第一中学校長)の吉田信治氏をお招きしました。

吉田氏からは、学校で独自に行っているサポート ステーションルームから見える不登校の実態、不登校支援プログラム、保護者との面談から見てきたこと等の具体的なお話をいただきました。

不登校は誰でも当事者となり得ることから、質疑応答の時間においても、参加者からたくさんの質問、意見、感想が出され、反響の大きさを感じられた学習会でした。また、参加者も一人の親として、子どもたちとどのような関わりが必要なのかを知る良いきっかけとなりました。次年度以降も登録企業のメリットとなり得るような学習機会等を提供していきたいと思えます。

※ 各学校のお近くに教育に理解のある企業があれば、いわき教育事務所にご連絡ください。登録へのアプローチをまいります。



～小中英語パートナーシップ事業及び英語指導力向上事業～



「豊かな言語活動を通じた小中連携の授業～英語による発信力の強化」「CAN-DOリストに基づく小中高を通じた授業改善」等を目的に、昨年度から3年間の実践研究が中央台南中学校、中央台東小学校、中央台南小学校、いわき光洋高等学校の4校で行われています。今年度は、中央台東小では、「生き物を守るために今できることについて、基本的な表現を用いて伝え合ったり話したりすることができる」ことを目標に、6学年で ALT との TT による公開授業を行いました。中央台南中では、2学年の授業で ALT を含めた3名の先生方による、「話す力」に焦点をあて、身近な話題について、賛成・反対、その理由を伝え合うことができる発信力の強化を目指した公開授業を行いました。

いわき光洋高等学校でも、ALT に日本の風習や行事について、メモに基づいて伝えることができることをねらいとした公開授業を行いました。いわき市全体に、本事業の目的実現に向けての動きが広がり、各学校の授業改善や授業力向上につながるよう来年度も関係校と連携しながら進めてまいります。



各種表彰、おめでとうございます



- ◆福島県教育・文化関係表彰
 - 学校教育功労者表彰
 - 平第一中学校 校長 塚本 英樹 先生
 - 社会教育功労者表彰
 - いわき市社会教育委員 神山 敬章 様
 - 文化財保護功労者表彰 団体の部
 - 御宝殿熊野神社稚児田楽・風流保存会
 - 学校保健功労者表彰
 - (元)湯本第一小学校学校医 織内 素生 様
 - (元)湯本第一中学校他学校医 根本 勝也 様
 - 公立学校永年勤続者 60名
 - 特別功績者表彰
 - 「優秀教職員」
 - いわき湯本高校 教諭 渡部 久美子 先生
 - 勿来高校 教諭 清水 堅香子 先生
 - 平支援学校 教諭 鈴木 のぞみ 先生
 - 「若手教職員奨励の部」
 - 桶売小学校 栄養教諭 佐藤 礼奈 先生
- ◆文部科学大臣優秀教職員表彰
 - 小名浜第一小学校
 - 養護教諭 渡邊 佳子 先生
 - 内郷第一中学校
 - 教諭 宮崎 美穂 先生
- ◆福島県教職員研究論文
 - ・入選 平第一中学校
 - 教諭 吉田 良平 先生
 - ・奨励賞 いわき湯本高校
 - 実習教諭 高橋 克明 先生
- ◆ふくしまっ子健康マネジメントプラン事業
 - 「食育推進優秀校表彰」
 - ・最優秀賞 小名浜第一小学校
 - ・優良賞 桶売小学校
- ◆学校給食優良団体表彰
 - 桶売小学校

総務担当より

所得税と住民税の違いと注意点

忘れたころにやってくる恐怖の…



イ、イラストが去年と同じじゃん…

所得税は国税、住民税(市町村民税&県民税)は地方税です。いわき市内在住で勤務地も同市内の場合、所得税に関する窓口はいわき税務署、住民税はいわき市役所です。

両税とも年末調整(または確定申告)によって、その年(確定申告は前年)の1月から12月分の合計所得により税額が決定されるまでとは同じですが、所得税が12月(再調整がある場合は1月も)の給与で調整(完結)するのにに対し(確定申告の場合はその時)、住民税は翌年の6月から翌々年の5月にかけて毎月一定額を給与から徴収(天引き)されます。

違いの理由は、所得税は毎年1月から概算額を毎月納付し、12月に当該概算額(の合計)と確定額(年末調整で計算した年税額)を比べ、差額分を返す(不足の場合は追加徴収)という「前納(概算&精算)方式」に対し、住民税は税額確定後の「後納方式」のためです。

この違いによる注意点は、退職後の住民税です。1月から4月に退職する場合、退職金等から一括徴収することが義務付けられていますが、退職金がない場合は、退職後、自分で納める必要があるからです。また、退職した翌年も、退職前の所得に係る住民税が課せられるため、「収入がないのにこんなに?」と慌てないように、毎年6月頃に届く住民税の通知書を保管し、どれくらい住民税を納めているのかを把握しておくとういでしょう。

管理担当より

「講師として勤務できる方を募集しています！」

いわき教育事務所では、いわき市内の公立小学校、中学校、県立高等学校で、講師として勤務できる方を募集しています。1月11日(水)には、「ペーパーティーチャーのための相談会」を初めて開催し、複数名の参加者がありました。そしてその中から、講師の採用につながる方もいました。講師を希望するにあたっては、



- しばらく教壇に立っていないのだけど・・・
- 初めて教壇に立つので自信がないのだけど・・・
- 教員免許を更新していないのだけど・・・
- 希望校種の教員免許がないのだけど・・・
- 毎日働くのは難しいのだけど・・・ etc



などの悩みや不安もあると思いますが、昨年7月には、教員免許の更新制が発展的に解消されていますので、お気軽にご相談いただき、学校での勤務に向けて話し合ってください。親戚、友人、近所の方、退職された方などへお声かけのご協力をお願いします。

連絡先：いわき教育事務所 管理担当 24-6216